文化財をたずねて

飾東町めぐり

表紙説明

南方より見た中世山城庄山城跡

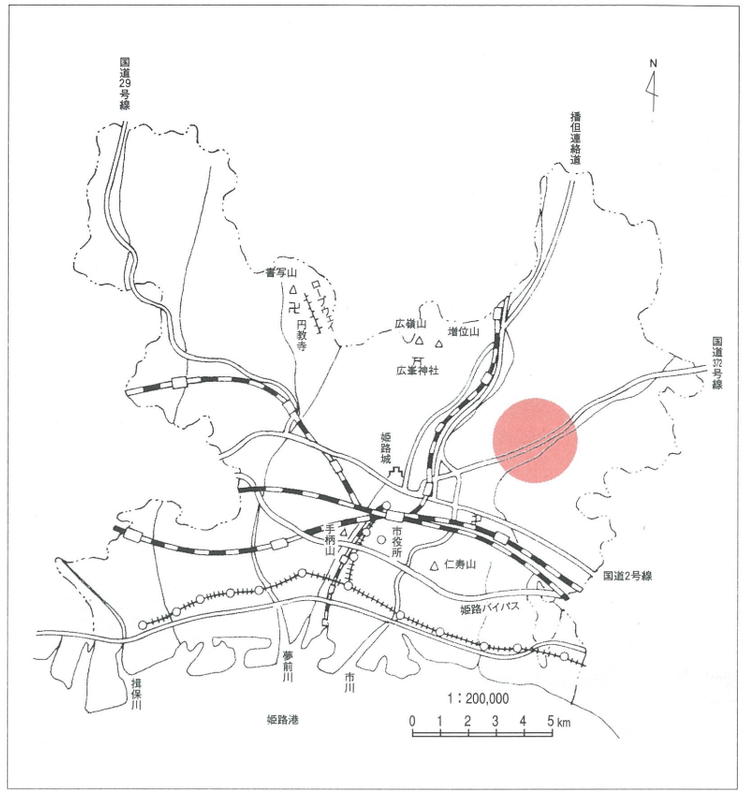
コース案内

庄西口―(約一、〇〇〇m)―吉祥寺―(約一、三〇〇m)―豊国の道標―(約三、〇〇〇m)―唐端藤蔵の碑―(約三、〇〇〇m)―春日野神社―(約一、三〇〇m)―苔の清水―(約一、三〇〇m)―八重畑の廻国塔―(約一、五〇〇m)―小原五輪塔

＊文化財の見学はマナーを守りましょう。

交通案内

神姫バス　庄西口下車



平成５年２月１日
平成13年３月再版
〔姫路市教育委員会
姫路市文化財保護協会〕発行

吉祥寺の石棺仏

境内左の参道の中に二基の石棺仏がある。向かって右側は組合せ式石棺の側石に阿弥陀坐像が彫られ、左側は宝珠と鍔状を持った地蔵立像が彫られている。南北朝時代（一四世紀）の作と推定。堂前の鰐口は、安永六年（一七七七）の銘がある。

真言寺の喚鐘（国指定）と石棺仏

子安地蔵

喚鐘は、姫路市で確認されている唯一の鎌倉時代の鐘。石棺の一部として立てられた板石に地蔵を彫り、飛天、楽器などが鋳造された。延宝元年（一六七三）の銘がある。

子安地蔵

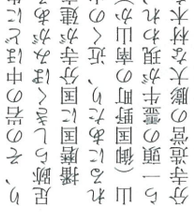
在原和集落内の地蔵堂に安置されている板石に地蔵を彫り、石柱の一部に「子安地蔵」と刻まれている。（一三六三）のもので、「子安地蔵」として信仰されている。

牛の足跡

庄の大歳神社社殿の東に高さ一ｍ余りの凝灰岩がある。足跡らしきくぼみがあるが、その岩の中ほどにある。播磨国に国分寺を建立された聖武天皇（一八七四）に建立された姫路市内で最古のもので、全国的にも古い道標である。姫路市指定文化財。また、この道標のすぐ左に久三郎、（一八六三）に建てられた道標がある。道標としては姫路

豊国の道標

八重畑の廻国塔



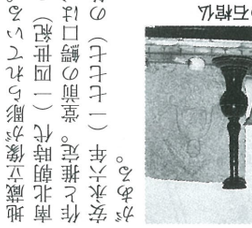
八重畑の児童公園の南、山麓に位置する。正面に「大乗妙典日本廻国供養塔　六十六部（以下略）」とあり、嘉永元年（一八四八）の銘文がある。廻国塔は大乗妙典を全国六六部と称した法華経を全国六六カ国の霊場に納めた目的である。

小原の五輪塔

五輪塔

小原の北東に「姫が塚」とよばれる五輪塔がある。建武四年（一三三七）の銘文がある。この塔は、激しい地震で傾いた塔をもとの位置に戻したとき、地下から出土した。

苔の清水と地蔵


苔の地蔵さん

山崎の天川の南、山麓にある。この清水は、苔の清水と呼ばれ、播磨十水の一つ。

苔の清水

治って北上すると金池がある。この池の東西山麓一帯が、長谷山城址。有乳山城址銀山の跡。鉱質は金銀鉛。採掘開始の時期不明。長谷山城址は姫路城主本多美濃守のころに盛んに採掘された。これらの鉱山は、明治大正期までの間かが採掘が中止している。長く続いた。

八重畑鉱山跡

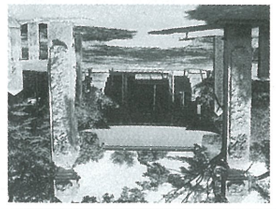
天川の支流、八重畑川に沿って北上すると金池がある。この池の東西山麓一帯が、長谷山城址。有乳山城址銀山の跡。鉱質は金銀鉛。採掘開始の時期不明。長谷山城址は姫路城主本多美濃守のころに盛んに採掘された。これらの鉱山は、明治大正期までの間かが採掘が中止している。長く続いた。

歌人　岡本俱佐羅

廻国塔

本名常増。明治十年、人重畑に生まれる。旧制京都中学卒業後、外科医として勤務。神戸病院産婦人科部長として活躍。中国東北部（旧満州）に渡り、「馬酔木」に短歌を発表。翌年、結核で入院。明治三十六年、伊藤左千夫主宰の「アララギ」に入会。翌年、「馬酔木」と「アララギ」の両誌に投稿。大正十年、三十歳で死亡。

春日野神社


春日野神社

城山中腹の北の山麓なだらかな平地に、鎮座している。現在の山城跡は、一号墳となっている。一号墳には特色ある石室をもつ平成三年十月山陵自動車道建設のための発掘調査した円墳で、播磨で最大級の金メッキを施した鋼製の馬具の一部が発見された。

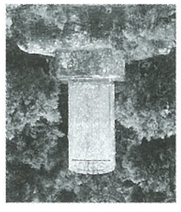
庄山城跡

庄・豊国の北、城山にある。中世の山城を代表するもの。現在わずかに表ずる垣、土塁、堀切り、井戸などの遺構が残っている。庄山城は赤松貞範が貞和五年（一三四九）に築き、十二年間在城し、六十九歳で没す。享禄二年（一五二九）、御着城主小寺政隆が庄山城主を兼ねるが、翌年、浦上村宗に攻められ計ち死に。その後、別所孫右衛門重棟が城主となった。天正年中に落城したという。

春日野占墳群

城山中腹の北の山麓なだらかな平地に、十二の古墳が散在している。金環、鉄鏃、須恵器などが出土した。規模は小さい。一号墳などは特色ある石室をもっている。

唐端藤蔵の碑

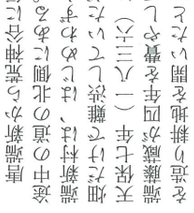

唐端藤蔵の碑

唐端新から荒神谷に行く途中の北側にある。唐端藤蔵が生らせた笑っている。ところに地蔵堂で本尊の庄山城跡。地蔵は、大正に石碑を建てられた。

春日野神社

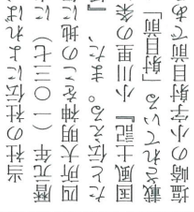
当社の社伝によれば、長暦元年（一〇三七）に春日四所大明神をこの地に祭ったと伝える。また、『播磨国風土記』小川里の条に記載されている「射目前」とあるとし、『三代実録』貞観十年塩崎の小字射目前の条に「播磨国正六位上射目崎接伎王」は、この地に祭られた推定されている。元文四年（一七三九）の手水鉢や宝暦十一年（一七六一）の石灯籠などがある。

苔の清水



乳の出に因る婦人にご利益があるといい、昔西国の武士や旅人の休憩で地蔵堂に通じる巡礼道で、円教寺に道標を建てられたりする地蔵がせせらぎ笑っているようにも見えて楽しい。地蔵は、大乱に石碑を建てられ、ほとめかすかの畑新村は、はじめ中の北側にある。唐端藤蔵が四年を費やして池を造り耕地を開いたといわれ、その功を讃えて建てた碑である。

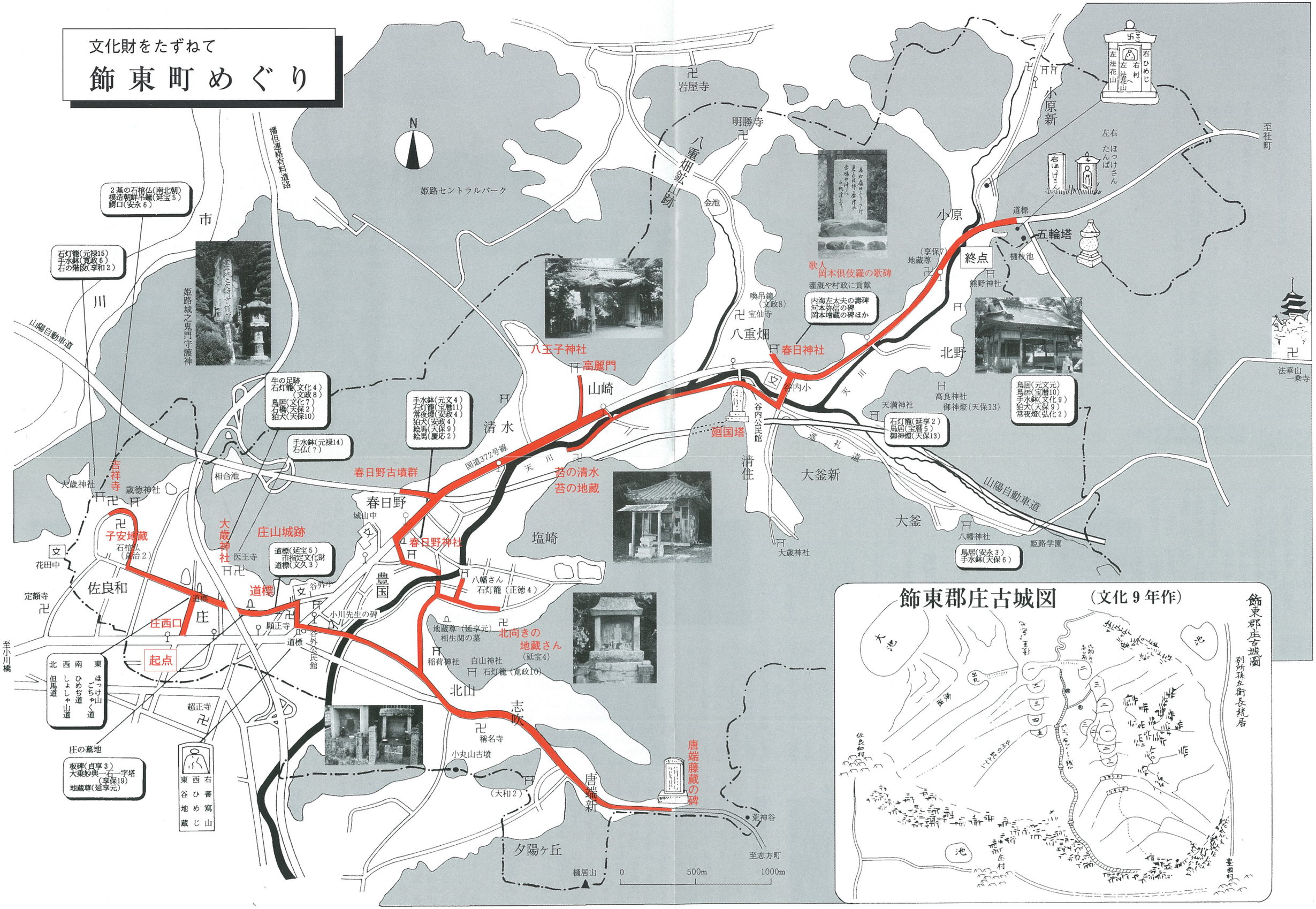
八重畑の廻国塔



八重畑の児童公園の南、山麓に位置する。正面に「大乗妙典日本廻国供養塔　六十六部（以下略）」とあり、嘉永元年（一八四八）の銘文がある。廻国塔は大乗妙典を全国六六カ国の霊場に納めた目的である。

五輪塔

小原の北東に「姫が塚」とよばれる五輪塔がある。建武四年（一三三七）の銘文がある。この塔は、激しい地震で傾いた塔をもとの位置に戻したとき、地下から出土した。

文化財をたずねて

飾東町めぐり